

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名 旧キャンパス維持管理費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 電話番号：0584-75-6600

E-mail：c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,770 千円 (前年度予算額：3,062 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,062	0	0	0	0	0	0	0	3,062
要求額	3,770	0	0	0	0	0	0	0	3,770
決定額	3,770	0	0	0	0	0	0	0	3,770

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

平成26年3月に情報科学芸術大学院大学(IAMAS)は、ソフトピアジャパン地区へ全学移転した。

移転後の旧校舎は無人化としていることから、施設の安全面・防犯面について一定程度の水準で管理する必要があるため、平成26年4月に建物内(本校舎・新校舎・マルチメディア工房)に機械警備を導入し、建物外周に仮囲いを設置している。しかし近年、旧校舎敷地内への不審者の侵入が多発したため、警備機器の拡充を図る必要がある。

マルチメディア工房は、半地下の建物のため雨水・湧水が地下タンクに溜まる構造となっており、タンクの水がある程度溜まると排水設備が作動する仕組みであるが、排水設備は老朽化による故障が多く、工房内を水浸しにさせないためにも故障時は速やかに対応しなければならない。

グリーンキャンパスは、移転後も地域住民に開放しており、樹木や芝等の最低限の維持管理は不可欠である。

また、自家用電気工作物(高圧受変電設備)は、稼働している限り法定点検を受ける必要があり、令和5年度より割引の適用外となる。

(2) 事業内容

- ・旧校舎機械警備
旧校舎3棟の1・2階及び渡り廊下に機械警備機器を導入し、外部からの不正侵入を監視する
- ・旧校舎等緑地管理
旧校舎敷地内の中高木、低木、芝について最低限の緑地維持管理を行う。
- ・マルチメディア工房の排水設備機能維持
老朽化の著しい同建物の雨水・湧水排水設備の修繕を随時行う
- ・自家用電気工作物管理
高圧受変電設備の点検・管理を行う
- ・光熱水費

(3) 県負担・補助率の考え方

県10/10（県有施設の維持管理のため）

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
光熱水費	1,626	光熱水費
修繕料	342	マルチメディア工房排水設備機能維持
委託料	1,802	旧校舎機械警備、旧校舎緑地管理、自家用電気工作物保守管理
合計	3,770	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 今後の計画

引き続き旧キャンパスの利用について、地元等の意向を確認する。

(2) 後年度の財政負担

土地・建物の利用計画が定まり、引渡しが完了するまでは県で維持管理費を負担する必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

跡地利用が決定するまでの間、大学移転後の旧キャンパスの保全、周辺住民の安全対策及び防犯対策等必要最小限の維持管理を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

事業内容が、跡地の利用が決まるまでの旧キャンパスの維持管理であるため、達成目標及びその指標の設定にはなじまない。

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容と成果を記載してください。 ・機械警備の実施（通年） ・緑地管理の実施（10～12月） 旧キャンパスの維持管理を行うことができた。
令和 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・機械警備の実施（通年） ・緑地管理の実施（10～12月） 旧キャンパスの維持管理を行うことができた。
令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない 	
(評価) 2	安全管理や、景観管理等県有財産としての管理が必要となっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	防犯、安全管理を適切に行うことができている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている 	
(評価) 1	機械警備による監視等、経費節減を図りながら取り組んでいる。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 大学の跡地利用が決定されるまで維持管理の必要がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 跡地利用が決まり、具体的に管理を引き継ぐまでは事業を継続する必要がある。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	